

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第25回 総 会 報 告

平成11年3月25日、兵庫県立尼崎病院講堂において平成10年度の近畿病院図書室協議会第25回総会を開催した。当日は出席会員32機関、委任状の提出66会員で開催され、議長に浜口恵子氏、副議長に中嶋和子氏、書記に中西和代氏を選出し議案審議に入った。

議案7題はそれぞれ満場一致で可決され、次年度の会長には、2月の役員会で選出された粉川皓仲国立京都病院院長が選出され、事務局長には、小田中徹也現事務局長が再選された。また、講師に中井久夫先生（甲南大学文学部人間関係学科特任教授・神戸大学医学部精神神経科名誉教授）を招き、「精神科の図書について」と題して総会特別記念講演を開いた。

議 案 日 程

- 議案Ⅰ. 平成10年度活動報告
- 議案Ⅱ. 平成10年度会計・監査報告
- 議案Ⅲ. 平成11年度活動方針
- 議案Ⅳ. 平成11年度事業計画
- 議案Ⅴ. 平成11年度予算
- 議案Ⅵ. 役員改選
- 議案Ⅶ. 次年度会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成10年度活動報告

はじめに

昨年度末、10年ぶりに改訂発行した『医学雑誌総合目録 1997年改訂版』は、今年度早々の1998年4月に全会員へ配布し、現在、会員間の相互貸借における必携ツールとして活用されている。当目録は協議会会員のうち、90機関の医学および医療関連分野の雑誌所蔵データが収録されたものであり、外国雑誌1,436誌、国内雑誌1,713誌を数える。また、会員の雑誌所蔵状況については、この総合目録のデータ集計以降の変動を補う目的で、1998年11月に『現行雑誌所在目録 1998年版』を発行し、会員へ配布した。なお、総合目録については会員へは実費のうち7,000円、非会員へは12,000円の負担をお願いすることになったが、現行所在目録については会員の年会費から捻出し、非会員には非売品とした。さらに現在、この総合目録作成で得たデジタルデータを有効に活用すべく、汎用データベース・ソフト上で処理する文献相互貸借管

理システムを開発中であり、来年度には会員へ配布できるように準備を進めている。

教育研修活動では、今年度も定例4回の研修会と、勉強会および見学会をそれぞれ1回開催した。先ず、春の大阪での第86回研修会では、従来の初心者向け勉強会を定例研修会として開催し、内容を協議会活動の紹介、図書館員のあり方、文献相互貸借の実務などをプログラムに組んだ。また、神戸での夏の第87回研修会では、昨年度初めて企画して好評だった合宿セミナー形式で今年度も開催した。テーマは、1日目：各関連分野における今日的キーワード、2日目：病院図書館員の専門性として、講義とワークショップを行った。さらに、秋の大阪での第88回研修会では、今年度もコンピュータ関連を扱い、「電子ジャーナル・電子出版」をテーマとして、会場ではインターネットに接続しながら実技も交え、開催した。総会当日の第89回研修会は、例年どおり会員の事例研究報告会を予定している。

なお、11月に松阪市で開催した東海地区勉強会では、協議会の教育研修活動の一環として、当地区会員の自主的な開催意欲を支援する形で実行し、経費、講師の交渉、企画運営などでサポートした。この形は今後、他の地区でも要望があれば踏襲したいと考えている。また、9月の見学会は近畿地区医学図書館協議会のシンポジウム参加に協力する形で実行し、今年度は大阪歯科大学図書館を訪れた。

出版広報活動では、会誌『病院図書室』（季刊）18巻1号では特集「検索用CD-ROMと病院図書室」で医学中央雑誌CD-ROM版や病院図書室における環境整備について触れた。また、18巻2号でも同じく検索用CD-ROMをとりあげ「MEDLINEデータベースと検索用CD-ROM」を特集した。さらに18巻3号では、第87回研修会を特集し、病院図書室に関連する5つの分野の「今日的キーワード」、ワークショップ「病院図書館員の専門性」を詳しく報告した。また、この巻から新しく「いますぐ役立つホームページ」、「相互貸借便利ノート」など

の連載を始め、実務に直結する記事作りも心がけた。ところで、昨年度9月に、URLを“<http://www.hosplib.org/>”に移転した当協議会ホームページは、共同運営ホームページ「フォリオ」をメニューに入れ、会員へのインターネット利用を図っている。今後、記事の内容や更新についてさらに充実させていきたい。

なお、会員委託サービスセンターのうち、規格用紙サービスセンター（京都南病院）、コンピュータ・ファイル管理センター（大阪回生病院）、BLLDセンター（星ヶ丘厚生年金病院）についてはその役割を終えたものとして、今年度で委託を終了することにした。この他にも、来年度、協議会を紹介する小冊子発行に合わせ再検討し、整備していきたい。

対外交流では、昨年度から準備を進めてきた病院図書室研究会との共同事業が、今年度からは実施段階に入ったことが重要である。二つのテーマのうち「インターネット・プロジェクト」では、両会員のインターネット活用を促すために5月、共同運営ホームページ「folio:フォリオ」をウェブ上に開設した。現在、両会からの7名によるチームを編成して運用しているが、アクセス件数も5月から2月までに8,000を越え、財団法人AVCC高度映像情報センターの選定サイトに選ばれるなど一定の成果があったものと評価できる。

また、「病院図書館員認定資格制度の調査研究」では、昨年度末に実施した両会会員へのアンケート調査を踏まえ、今年度からは検討班を設けて、その実施に向け調査検討作業を進めることになった。教育カリキュラム案、医療関連・図書館関連認定資格制度の現状、実施方法などを検討していく過程で、教育認定から始めることにした。現在、両会からの5名の班員によって、カリキュラムと実施計画案を検討中であり、来年度には両会においてその試行が検討課題となろう。

さて、来年度は当協議会設立25周年にあたり、事業においては記念的な企画を考えてい

きたい。また、その過程で協議会の今後のあり方についても考えていく必要があると思われる。

I-1-1 研修部

[第86回研修会]

日時：1998年6月4日(木)10:15~16:40

場所：阪和記念会館2階第1会議室

会費：1,000円

プログラム：

1. 近畿病院図書室協議会の活動について
講師：小田中徹也（国立京都病院）
2. 「病院図書館員の仕事」について
講師：首藤 佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
3. 相互貸借業務について
基礎知識・資料の使い方・基本ルール
講師：中村 雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

参加者：23名（うち研修部6名）

[第87回研修会]

日時：1998年7月31日(金)~8月1日(土)

場所：ペアーレ神戸（社会保険神戸健康づくりセンター）

会費：会員 15,000円 非会員 17,000円

プログラム：

第一日目「病院図書館員をとりまく、今日のキーワードを押さえよう！」

1. 診療情報管理における今日のキーワード
講師：尾関 美智子
（国立京都病院病歴室 診療情報管理士）
2. 看護における今日のキーワード
講師：宮内 恭子
（社会保険神戸中央病院 看護副部長）
3. パーソナルコンピュータにおける最近のキーワード
講師：小田中徹也
（国立京都病院 司書）
4. 図書館情報学における今日のキーワード
講師：山崎 茂明

（愛知淑徳大学文学部図書館情報学科助教授）

5. 小児神経学における今日的キーワード
講師：多田 博史

（西宮市立中央病院小児科兼母子センター医長）

第二日目

「病院図書館員の専門性とは何か？」

ワークショップ

「病院図書館員の教育」

森川治美（松阪中央総合病院）

「知識と技術」

松本純子（住友病院）

「労働環境」 前田元也（西淀病院）

グループ発表とディスカッション

病院図書館員認定資格制度検討班報告

（病図研・病図協共同事業）

首藤佳子

（検討班班長 星ヶ丘厚生年金病院）

総合ディスカッション

参加者：会員 26名 非会員 4名

[施設見学会]

近畿地区医学図書館協議会 第4回シンポジウム

日時：1998年9月25日(金)13:20~16:30

場所：大阪歯科大学図書館

会費：無料

参加者：13名

[東海地区勉強会]

日時：1998年11月14日(土)

場所：松阪中央総合病院

会費：500円

プログラム：

1. レファレンスの基本と考え方

講師：山崎茂明

（愛知淑徳大学図書館情報学科助教授）

2. インターネットで情報検索！

「病院図書館員のためのホームページ：フォリオ」の紹介

講師：大橋真紀子（社会保険中京病院）

参加者：18名

[第88回研修会]

日時：1998年12月17日（木）10:00～16:30

場所：阪急グランドビル2 6階会議室

会費：会員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム：

1. 6000誌をインターネットで配信 Pro-quest Direct
講師：山下幸侍（サンメディア）
2. CD-ROM出版の現況と利用のポイント
講師：安保秀樹（サンメディア）
3. 病院図書室におけるCD-ROMの保管と貸出
講師：山室真知子（京都南病院）
4. 大学図書館におけるオンラインジャーナルの利用について
講師：尾城孝一
（東京工業大学附属図書館）

参加者：会員33名 非会員 5名

[第89回研修会]

日時：1999年3月25日（木）

場所：兵庫県立尼崎病院

会費：500円

プログラム：[事例・研究報告会]

参加者：36名

今年度は4回の研修会、1回の勉強会と施設見学会を行った。

今年度は、病図研との共同事業でもある「病院図書館員認定資格制度」というテーマを念頭に置き、病院図書館員としての専門性を追求し、実現するための教育的プログラムを考慮した。そこで昨年度は春に開催していた新人向け勉強会を第86回研修会として、従来の相互貸借のルール以外にも「近畿病院図書室協議会の活動について」と「病院図書館員の仕事について」という内容を盛り込んだ。この研修会については、今後も新会員・新人向けに配慮して企画を立ててゆきたい。

第87回研修会は、昨年の宿泊セミナーが好評につき、今回も一泊二日として開催した。一日目は病院図書館員に関連する分野からい

くつかのキーワードを元に講演を企画した。二日目は「病院図書館員の専門性とは何か」についてのワークショップを行った。参加者各自が病院図書館員の専門性について深く考えるよい機会となったようで、まずまずの成功であったと思われる。ただ案内の際、会費について食費込という記載があったために、会費支払について施設側からの理解を得られない例があり、会員から当惑の声が聞かれた。案内については、諸事情をふまえて慎重に行うべきであった。

施設見学会は、近畿地区医学図書館協議会の第4回シンポジウムをあて、多くの参加者があった。

勉強会については、東海地区の勉強会を行った。近畿圏からの参加も多く盛況であった。東海地区に限らず、他地域においても自発的な勉強会を行うことについては、研修部がバックアップしていく方針で、今後進めていくことになった。

第88回研修会では「電子ジャーナル・電子出版」をテーマとした。話題性のあるテーマを幅広くとらえ、パソコン操作の実習も含まれていたために、親しみやすい内容であったと思われる。ただ今後もこういったコンピュータ関連のテーマでの研修会開催については、インターネットを使用する必要性も高く、コンピュータ設備を兼ね備えた会場探しが困難であり、会場費も高額となるという課題が残っている。

年間を通して研修部事業の評価としては、一泊二日の宿泊研修会の成功をあげたい。昨年度の成果を受け、充実した研修会となったと考える。ただ日程の設定や宿泊費込みの会費設定、前述したような案内にも今後検討の余地があるため、来年度も恒例行事とするのであれば、きめ細かな配慮を忘れず企画を行いたい。

また今年度の研修部では、部員の役割を決め、部長、会計、書記の他に各研修会毎の責任者を決めてそれぞれの研修会を開催した。次年度は、新たな研修部体制で臨むことにな

るが、会員間の親睦を計り個人の知識や技術が深まるような研修会を企画し、協議会全体の資質向上をめざしてゆきたい。

I-1-2. 編集部

1. 活動報告

今年度は会誌18巻1号～4号を発行した。総ページ181ページ。

発行経費は1,639,592円で予算1,500,000円に対して139,592円の赤字となった。配布部数は、214部（会員120、講読会員75、交換6、寄贈13）である。

主な内容、発行日、印刷部数は下記のとおりである。

1号（発行H10.6.11. 印刷部数 300部）

特集：検索用CD-ROMと病院図書室／図書館員教育の今日的課題／今すぐ役立つホームページ／相互貸借便利ノート他

2号（発行H10.7.9. 印刷部数 300部）

特集：MEDLINEデータベースと検索用CD-ROM／他

3号（発行H10.10.23. 印刷部数 300部）

特集：協議会第87回研修会より／病院図書館員認定制度に関する検討課題 他

4号（発行H11.2.28. 印刷部数 300部）

病院図書館員のためのウェブページ・フォロ／医学・医療の逐次刊行物の訂正記事について／医学用語あれこれ総集編他

また、広告収入は下記のとおりである。

サンメディア（裏表紙）	18(3)'98～19(2)'99	80,000円
ナカバヤシ(B5)	18(2)'98～19(1)'99	40,000円
ベルブック(B5)	18(1)'98～18(4)'98	40,000円
医学中央雑誌刊行会(B5)	18(1)'98～18(4)'98	40,000円
厚生社(B6)	18(2)'98～19(1)'99	20,000円
合 計		220,000円

2. 総括

今年度を総括すると次のようになる。前進面として、1) 編集方針に基づき企画発行することができた。2) レイアウト業務を外注することにより部員の負担を軽減することができた。

今後の課題としては、1) 発行の遅れは昨年と比べると一定改善(1号～3号)されてきたが、より一層の改善(企画の早期立案、原稿締め切り日の厳守の徹底など)が求められる。2) 部員の増員なども含めた編集体制の確立などが挙げられる。

3. 編集方針

'98編集方針は、病院図書館員に必要な身近な記事作りを目指すことを挙げた。図書室サービスに必要なニューメディアの紹介や具体的事例を取り上げること。また、病院図書館員の役割や、専門性を追求していくに基づき企画発行する事ができた。

MEDLINEデータベースおよび検索用CD-ROMなど、ニューメディアの紹介から実用にいたるべく図書室担当者の参考となる記事を取り上げ、事例を交えて紹介することに努めた。また、病院図書館員資格認定制度など病院図書館員の専門性を追求していくうえで病院図書館員の役割と今後を展望した。なお、ホームページの紹介および相互貸借の知識充実のため、シリーズ掲載を開始した。

'99編集方針は、これまでの蓄積の上にたち、次のことを挙げる。

病院図書室担当者の専門性を更に高めるために、誌面上から貢献できる記事作りを目指す。情報管理部門としての職能レベルの向上とそれにかかわる知識、情報の提供を目指す。

文献情報を充実し、幅広い関連記事作りを目指す。

多くの会員に、誌面参加の機会を与えるように計っていく。

これらの方針に基づき、より充実した誌面作りをめざし、具体的に企画・編集していくこととする。

4. 発行の遅れの解消について

昨年来の発行の遅れは、おおむね解消され、現在予定より1号の遅れがある。なお、発行日は、3ヶ月の遅れがある。今後の対応として、原稿依頼に余裕を持ち、締切厳守を促進することに努めていく。

5. 19巻以降の発行について

19巻1999年の発行は、編集方針に基づき、誌面の充実に努めていきたい。具体的案として、さまざまな病院図書室における取り組みの紹介、日本医療機能評価機構と病院図書室について、総会・研究会特集等を企画予定している。なお、近畿病院図書室協議会25周年として、誌面上で記念すべき企画を考えていきたい。その他、特集記事や各論文で編集方針を深め、ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実するとともに、関連記事(図書館、医療関係)の紹介の充実に計る。また、会員参加の誌面作りを目指す。

6. 会誌「病院図書室」別冊発行について

会誌上にて、1991年6月会報18巻2号通巻97号より連載されてきた「医学用語あれこれ」を別冊として編纂する。ページ数35ページ程度とし、編集部予算内にて行うこととする。発行時期は1999年夏を予定する。

7. 今年度より新たに副部長を設け、新体制にて誌面充実をめざすこととする。

I-1-3 統計調査部

【重複雑誌目録の発行】

- a. 調査対象：1997年1-12月発行の重複雑誌
- b. 作業経過：1998.8.24調査紙発送 (118施設)
1998.9.24回答締切
1998.11.30目録発送 (118施設)
- c. 参加施設：38施設 (参加率32%)
- d. 対外数：222誌(国内82種外国140種)

【図書室統計調査報告書の発行】

- a. 調査対象期間：平成9年度(1997年4月～1998年3月)
- b. 調査項目：図書室管理機能、サービス機能、統計
- c. 作業経過：1998.8.24 調査用紙を発送 (118施設)
1998.9.24 回答締切日
1998.11.30 報告書の発送 (118施設)
- d. 回答施設：95施設 (回答率80%)
- e. 文献の相互利用
- 協議会全体での件数 -

- 申込 -

協議会会員	19,893件(39%)(77施設)
会員以外の病院	3,642件(7%)
大学図書館	16,532件(33%)
文献手配業	9,259件(18%)
その他・不明	1,521件(3%)
合計	50,847件

- 受付 -

協議会会員	17,157件(75%)
上記以外の病院	4,074件(18%)
その他・不明	1,558件(7%)
合計	22,789件

【経費】

印刷費：15,600円 郵送費：10,800円

I-1-4 目録編集部

1. 「医学雑誌総合目録1997年改訂版」の配布
1997年度のほぼ一年を費やして完成した「医学雑誌総合目録 1997年改訂版」は、1998年4月に全会員に配布した。この総合目録への参加は90機関、外国雑誌1,436誌、内国雑誌1,713誌を収録した。発行に要した実費単価のうち、会員には7,000円の負担をお願いし、不足分と発送費は協議会予算から支出した。またこの目録に掲載されている自機関のデータのみ(書誌データを含む)を希望された会員には、実費1,000円で頒布した。また

当日録を購入希望された非会員には12,000円の実費を負担して頂き、頒布した。

2. 「現行雑誌所在目録1998年版」の発行

「医学雑誌総合目録1997年改訂版」には1997年までの雑誌の所蔵が収録されており、それ以後の各機関での所蔵の変動と、1998年に創刊された雑誌の所蔵を補うことを目的に「現行雑誌所在目録1998年版」を発行した。この目録には各会員機関が所蔵する1998年の国外雑誌853誌、国内雑誌1,216誌を収録し、参加機関は92機関であった。目録の作成には先に発行した「医学雑誌総合目録1997年改訂版」のデータを基とし、所蔵機関の表示は機関の略称として利用の便を計った。(1996年版は機関コードで表示)

この目録の発行経費は会員の年会費から捻出し、[非売品]として会員に配布した。

I-2-1 幹事会

昨年同様、4回の幹事会を開き、会の運営にあたった。

- 第1回(98/04/16)：淀川キリスト教病院
- 第2回(98/07/16)：国立京都病院
- 第3回(98/10/15)：淀川キリスト教病院
- 第4回(99/01/21)：国立京都病院

I-2-2 役員会

平成11年2月22日、兵庫県立尼崎病院で牧野尚彦会長の司会の下、出席者10名を得て開催した。当日配布の資料(平成10年度第25回総会議案書草案)に沿って、事務局、各事業部から今年度の事業活動報告、会計報告がなされた。この中で、創立25周年の記念的事業の企画や規模について、また、共同事業の病院図書館員認定資格制度の検討について、特に協議した。さらに、総合目録の報告など幾つかの事項と予算編成について、議案書作成に向け検討した。

なお、来年度の会長については、牧野会長から、国立京都病院の粉川皓仲院長を推薦され、事務局長には同院の小田中徹也司書が続ける

ことを推薦された。賛成多数で承認され、第25回総会に諮ることになった。

I-2-3 会員の状況

会員数：120機関(平成11年2月現在)

(近畿外 36機関、病院外 7機関)

異動：入会；5機関

入会：尼崎中央病院(兵庫)、富山市立富山市民病院(富山)、市立豊中病院(大阪)、徳川会徳田病院(大阪)、うえに病院(大阪)
退会：日本赤十字愛知短期大学図書館(愛知)

I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第69回総会(98/05/21-22 自治医科大学地域医療情報研修センター)へは、事務局長(小田中徹也)が出席した。また、第5回医学図書館員基礎研修会(98/08/05-07 滋賀医科大学)には会員3名が参加した。

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第71回例会(98/03/13 大阪歯科大学)へ幹事首藤佳子と松本純子が出席した。第72回例会(98/07/03 兵庫医科大学)へは事務局長の小田中徹也と会員の中嶋和子が出席した。また、第73回例会(98/12/11 奈良県立医科大学)へは会員の黒佐孝太郎が、それぞれオブザーバーとして出席した。さらに、当地区協議会は第4回シンポジウム(98/09/25 大阪歯科大学)を開催し、当協議会からもその実行委員として研修担当幹事の山室真知子が従来どおり加わった。当日は会員からも13名の参加があった。

今年度の日本病院会第21回全国図書研究会(98/10/21-22 東京)の後援名義の使用についても例年どおり協力し、また、会員の小田中徹也は講演をおこなった。

対外交流のうち、特に病院図書室研究会との共同事業については「はじめに」で、また独立した項目を立てて「共同事業」でも述べた。この他、各地区ネットワークとの交流では主にそれぞれの会誌や機関紙の交換を通じ、交流している。また昨春秋に設けた、ウェブ

上の掲示板「folio talk: 図書館員の掲示板」では、各地区の病院図書館関係者からの投稿が寄せられ、新たな交流の場を提供している。今後、こうしたインターネットを利用した交流はさらに進むと期待される。

I-2-5 共同事業

病院図書室研究会との共同事業において、今年度も2回の運営会議を開いた。その経過概要は、以下のとおりである。

第3回運営会議(1998/5/9 聖路加国際病院)

出席者：近畿病院図書室協議会/ 小田中徹也(国立京都) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金) 大橋真紀子(社保中京)

病院図書室研究会/ 長谷川湧子(関東通信) 奥出麻里(川鉄千葉) 河合富士美(聖路加) 田引淳子(清水市立) 下原康子(東邦佐倉) 上田奈緒美(都立臨医研) 熊谷智恵子(虎ノ門) 及川はるみ(聖路加) 山口文子(神奈川こども) 高橋成美(埼玉小児) 篠原寿美江(市立川崎)
議題：インターネット・プロジェクトと病院図書館員認定資格制度の調査・研究

協議事項：昨年度の準備段階から今年度は2つの課題について、実施およびその準備と方法を検討することにした。また、今年度の当運営会議は長谷川湧子が世話人を担当した。
協議事項：

●インターネット・プロジェクト

運営編集のためのチームを編成することにし、長谷川湧子、奥出麻里、下原康子、上田奈緒美、小田中徹也、大橋真紀子、須井麻由美の7名でチームを構成し、ウェブマスターを小田中徹也、編集長を奥出麻里が担当することにした。名称を「folio」「フォリオ」とし、近畿病院図書室協議会のドメイン内にサイトを置き、URLは、「http://www.hosplib.org/folio/」とした。この会議で参加者に披露して、正式に公開することに決定した。編集運営にあたっては、インターネットの機能を活かし、「仮想編集室」上で作業を進めて

いる。

●病院図書館員認定資格制度

検討班員として、河合富士美、田引淳子、首藤佳子で作業を進めることにし、班長には首藤佳子があたることになった。両会会員へのアンケートの集計結果をまとめ(担当：首藤)、分析報告を行った。集計結果は両会誌「病院図書室」「ほすびたるらいぶりあん」で報告することにした。教育カリキュラム、教育システムを作成し、病院図書館員の専門的知識についての教育認定から着手、実施に向けて取り組むこととなった。実施にあたっては、両会が運営母体となること、司書資格を前提とすること、移行期間上の措置、あるいは教育的配慮などが検討された。教育カリキュラム草案(担当：田引)、病院図書館員の専門性(担当：首藤)、医療関係職種における認定制度の調査(担当：河合)などを、引き続き各班員の宿題として検討することにした。カリキュラムが確定するまでは、ガイドラインを作成し、必要に応じて会員へ説明することにした。

第4回運営会議(1998/11/28 国立京都病院)

出席者：近畿病院図書室協議会/ 小田中徹也(国立京都) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金) 大橋真紀子(社保中京) 前田元也(西淀) 林伴子(社保神戸) 浜口恵子(高槻赤十字) 須井麻由美(三菱京都)

病院図書室研究会/ 長谷川湧子(関東通信) 奥出麻里(川鉄千葉) 河合富士美(聖路加) 田引淳子(清水市立)

協議事項：

●インターネット・プロジェクト

AVCC高度映像情報センターより、1998年9月の good siteに認定された。1998年10月23日、東京において第2回フォリオ編集会議を開いた。そこで、「サイト紹介の範囲と選定の指針」を新たに明示することにした。また、「患者サービスの展開」ページについては、選定は水先案内的なリンク集のみに限ること

とした。また、「図書館サービスへの支援」のサブメニューとして、新たに「保健医療関連サイト」メニューを追加し、保健医療分野の情報入手に役立つサイトを案内することにした。さらに、ウェブマスターにより掲示板「folio talk」が試作され、試用の結果、「folio talk:図書館員の掲示板」として11月25日に公開した。また、チーム専用の鍵つき掲示板「フォリオ仮想編集室(folio editors)」を12月末に正式使用することになった。

●病院図書館員認定資格制度検討班

班員として、首藤佳子、河合富士美、田引淳子の他に、林 伴子、浜口恵子が加わり計5名の構成となった。1998年10月24日聖路加国際病院において検討班会議を開催し、教育カリキュラム案、医療関連・図書館関連認定資格制度の現状について調査結果が報告された。また、移行措置や認定方法として通信教育を原則とする案が検討された。さらに、カリキュラムの大項目として、病院図書館情報学、コンピュータ・リテラシー、健康科学(医学・医療)、研究、を立てることにした。両会を母体とする第三者機構の設置、コスト試算、事務局の設置、なども提案・検討された。

●その他

今年度、共同事業運営会議の世話人を長谷川湧子が担当したが、来年度は小田中徹也に交替し、担当することになった。

I - 2 - 6

[学会発表]

- (1) 日本病院会全国図書研究会(東京)
1998. 10. 2-3

継続教育: 「病院図書館員のためのウェブページ“folio”、および最近のインターネットの傾向」

国立京都病院 小田中徹也

- (2) 第39回日本心身医学会総会(新潟)
1998. 6. 18-19.

司書のチーム医療への参加と役割

京都南病院 山室真知子

- (3) 第15回医学情報サービス研究大会(鳥取)
1998. 6. 20-21

心療内科における読書療法への参加

京都南病院 山室真知子

- (4) 第28回生物医学図書館研究大会(東京)
1998. 7. 11

京都南病院における患者への医学情報サービス

京都南病院 山室真知子

- (5) 日本赤十字病院図書室担当者協議会研修会 地域医療と病院図書室

京都南病院 山室真知子

- (6) シンポジウム「薬学情報の今 - 変容する社会への対応」(徳島) 1999. 3. 30-31

患者・住民への医学情報の提供(仮題)

シンポジスト 京都南病院 山室真知子

- (7) 第23回病院図書室研究会総会(鴨川)
1998. 5. 9.

病院図書館員認定資格制度に関する検討課題

星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子

- (8) 第36回日本社会保険医学会総会(札幌)
1998. 10. 9.

デジタル情報時代の病院図書室

星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子

杉谷 義憲、加藤 晴久

- (9) 第10回栃木県医療情報ネットワーク協議会総会(栃木) 1998. 10. 23.

病院図書室ネットワークの展望

星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子

- (10) 第5回日本赤十字病院図書室担当者協議会研修会(東京) 1998. 8. 3

当院における患者への図書サービス

高山赤十字病院 木下久美子

- (11) 第36回日本社会保険医学会総会(札幌)
1998. 10. 9

「病院図書館員によるインターネット上の医学関連情報ソースの選択的案内」

社会保険中京病院 大橋真紀子

- (12) 病院図書室のサービスをどうするか: 相互貸借の業者依託と簡略化

1998年病院図書室研究会第2回研修会シンポジウム(東京) 1998. 12. 14

大阪中央総合病院 森川 治美

[論文]

- (1) 小田中徹也 (国立京都病院)
館種別図書館概況「病院図書室」: 近畿
病院図書室協議会
図書館年鑑 1998年版 91-92 日本図書
館協会
- (2) 山室真知子 (京都南病院)
患者に対する医療情報の提供を考える・
司書の立場から (全国図書研究会報告)
日本病院会雑誌 45:433-436, 1998
- (3) 首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
病院図書館員認定資格制度に関する検討
課題
ほすびたるらいぶらりあん
23(3):71-79, 1998
- (4) 首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
病院図書室ネットワークを展望する
とみねっと No. 34 25-28 1998
- (5) 木下久美子 (高山赤十字病院)
当院における患者への図書サービス
日赤ライブラリアンニュース
5(2):37-38, 1998
- (6) 森川治美 (松阪中央総合病院)
これからの病院図書室 3 図書室のプラン
ニング
日本病院会雑誌 46(1):97-105, 1999
- (7) 森川治美 (松阪中央総合病院)
相互貸借の業者委託と簡略化
ほすびたるらいぶらりあん
24(1):15-16, 1999

議案Ⅱ 平成10年度近畿病院図書室
協議会会計報告・監査報告

(次頁)

議案Ⅲ 平成11年度活動方針

長引く不況の中、医療を取り巻く環境が厳しくなっていく中で、インターネットに見られる情報テクノロジーの学術情報への応用は、オンライン・ジャーナルに象徴されるように

めざましいものがある。一方、こうした情報テクノロジーは個人の生活レベルでの浸透も顕著であり、医学情報の一般への普及も例外ではない。病院図書館員は、今後、医療者および患者側への医学医療情報の提供という双方の面で情報の流通を考え、果たすべき役割を考えていく必要がある。

当協議会は設立から来年度25年目に入り、病院図書室の幅広い相互協力と全般的な向上を目指してきた。その結果、多くの成果を上げたと思えるが、さまざまな状況にある病院・医療関連機関は、機能や図書館員の位置付けなどに大きな格差があることも事実である。そこで、病院図書室の担当者の問題については、病院図書室研究会と共同ですすめている「病院図書館員認定資格制度」の検討を軸にして、これからの病院図書館員の方向性を探っていきたい。

また、協議会活動の見直しを図る意味でも、組織・事業・運営・相互協力などを整理して小冊子化し、協議会事業への会員の理解を深めるとともに、当協議会の次の世代への準備を図りたい。さらに、ここ数年力を注いだ情報メディアやテクノロジーについての教育・啓蒙活動は、研修活動、出版活動あるいはインターネット事業などで引き続き進めていきたい。

なお、25周年を記念する事業としては、時勢を考慮して記念的な式典は企画しないものの、個々の事業の中で有意義な記念的企画を立て、次の段階への碑としたい。その一環として、総会特別記念講演、協議会案内の小冊子発行、会誌補冊号の発行、目録データベース・システムの開発と利用などを先ず取り組んでいきたい。

対外交流面では、病院図書室研究会との共同事業は最重要課題であるが、日本医学図書館協会をはじめとする医学図書館と交流を深めることは、これまで以上に重要だと考えられる。また、各地区の関連団体あるいは関連機関ともさらに具体的な形で協力して医学情報の流通発展の寄与に努めていきたい。

議案Ⅱ 平成10年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)

単位=円

費 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	<u>2,201,250</u>	<u>2,201,250</u>	
会 費	<u>2,330,000</u>	<u>2,420,000</u>	H10×119=2,380,000 入会金×4= 40,000
事業収入	<u>1,402,000</u>	<u>1,751,975</u>	
会誌購読会費	(468,000)	(438,000)	H10×68= 408,000 H9×4 = 24,000 H8×1 = 6,000
研 修 会 費	(115,000)	(438,500)	第85・86回・87・88回研修会 東海地区勉強会参加費
雑誌総合目録	(819,000)	(866,475)	7,000×115=812,000 6,475×1 = 6,475 12,000×4 = 48,000
そ の 他	—	(9,000)	会誌売上 1,500×6
広告掲載料	<u>220,000</u>	<u>180,000</u>	
そ の 他	—	<u>464</u>	銀行利息
合 計	<u>6,153,250</u>	<u>6,553,689</u>	

(支出の部)

単位＝円

費 目	予算額	決算額	差引増△減	摘 要
総 会 費	<u>100,000</u>	<u>83,000</u>	<u>17,100</u>	選挙・議案書費用 特別講演謝礼・交 通費
事 務 費	<u>100,000</u>	<u>49,366</u>	<u>50,634</u>	銀行振込手数料, 封筒印刷費
通 信 費	<u>120,000</u>	<u>63,140</u>	<u>56,860</u>	事務局, 各部会連 絡, 会員宛通信費
交 通 費	<u>500,000</u>	<u>427,270</u>	<u>72,730</u>	幹事会, 各部会 その他
事 業 費	<u>3,800,000</u>	<u>4,323,561</u>	<u>△523,561</u>	
会誌発行費	(1,500,000)	(1,639,592)	(△139,592)	会誌18巻1.2.3号 印刷費・発送費
研 修 会 費	(350,000)	(827,316)	(△477,316)	第85・86・87・88回 研修会, 東海地区 勉強会
総 合 目 録	(1,350,000)	(1,208,454)	(69,546)	総合目録作成費, 発送費, 他
その他の事業	(600,000)	(576,199)	(23,801)	レンタルサーバ使用料 現行雑誌所在目録 統計調査報告書 重複雑誌目録 雑誌講読料(2誌, 内1誌は2年分)
資 料 費	<u>150,000</u>	<u>67,819</u>	<u>82,181</u>	
予 備 費	<u>1,100,000</u>	<u>0</u>	<u>1,100,000</u>	
雑 費	<u>283,250</u>	<u>38,520</u>	<u>244,730</u>	JMLA総会参加費他 接待費
合 計	<u>6,153,250</u>	<u>5,052,676</u>	<u>1,100,574</u>	

単位=円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	2,201,250	総会費	83,000
		事務費	49,366
会 費	2,420,000	通信費	63,140
事業収入	1,751,975	交通費	427,270
会誌購読会費	(438,000)	事業費	4,323,561
研修会費	(438,500)	会誌発行費	(1,639,592)
雑誌総合目録	(866,475)	研修会費	(827,316)
そ の 他	(9,000)	雑誌総合目録	(1,280,454)
		その他の事業	(576,199)
広告掲載料	180,000	資料費	67,819
そ の 他	464	予備費	0
		雑 費	38,520
		翌年度繰越金	1,501,013
合 計	6,553,689	合 計	6,553,689

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成11年3月13日

会計監査 花北まゆみ ㊞
原 紀子 ㊞

議案Ⅳ 平成11年度事業計画

1. 医学文献情報活動
「現行医学雑誌所在目録」1999年版の
発行
総合目録のデータベース化とその利用
2. 教育研修活動
定例研修会・勉強会の開催
関連団体の研究研修会への案内と
参加奨励
3. 出版広報活動
会誌『病院図書室』の季刊発行
ホームページの継続と内容更新
協議会の事業活動紹介の小冊子発行
4. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査
5. 共同事業
病院図書室研究会とのインターネット
・プロジェクト
および病院図書館員認定資格制度の調
査研究の継続実施

議案V. 平成11年度予算

(収入の部)

(支出の部)

単位=円

費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	1,501,013	総 会 費	150,000	選挙費用, 議案書費用, 特別講演謝礼, 交通費
会 費	2,370,000	事 務 費	100,000	封筒印刷, 年賀状印刷, 他
平成11年度	@20,000×118	通 信 費	120,000	事務局・各部会連絡, 会員通知用
	@10,000× 1	交 通 費	500,000	役員会, 幹事会, 各部会, JMLA近畿地区例会, 他
事業収入	634,000	事業費	3,000,000	
会誌購読会費	(498,000)	会誌発行費	(1,800,000)	会誌19巻1-4号 25周年記念別冊・印刷・送料, 執筆料
平成11年度	@ 6,000× 75	研 修 会 費	(350,000)	定例研修会 3回, 事例報告会, 勉強会
平成10年度未納	@ 6,000× 7	現行雑誌所在	(450,000)	
平成9年度未納	@ 6,000× 1	目 録		
研 修 会 費	(115,000)	そ の 他 事業	(400,000)	10年度年次統計報告, インターネット関連費, 協同事業関連費, 小冊子, 他
定例研修会	@1,000×30×3	資 料 費	150,000	雑誌講読料, 他
事例報告会	@ 500×35	予 備 費	500,000	
勉強会	@ 500×15	雑 費	205,013	慶弔費, 接遇費, 他
雑誌総合目録	(21,000)			
	@ 7,000× 3	合 計	4,725,013	
そ の 他				
そ の 他				
広告掲載料	220,000			
合 計	4,725,013			